

準優勝

角館高校

26年ぶりの決勝戦で

延長15回の死闘

見せた角高魂



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	計
角館	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
秋田商	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	4

来年、角館南高校との統合を控える角館高校。大正14年創立のこの伝統ある学校が果たせていない「甲子園出場」。昭和62年の第69回大会決勝では、水沢英樹投手（田沢湖出身・ドラフト4位で広島に入団）を擁する秋田経法大附属高校（現明桜高校）が立ち上がり、涙をのんだ。あれから26年。抜群の投手力と安定した守備、足を絡めた攻撃で並み居る強豪を次々と撃破。5試合を勝ち上がり決勝に駒を進めた。対する決勝の相手は甲子園常連の秋田商業高校。こちらも接戦の試合を勝ち抜き決勝まで進んだ。

7月23日、雲の隙間から時折日の差すやや暑い天候の中、こまちスタジアムで行われた決勝戦。全校生徒の応援に加え、角館南高校の1、2年生、高校OBや仙北市民らが球場に足を運んだ。テレビの前でも勝利を願い、多くの人々が固唾をのんだ。

先攻は角館、後攻が秋田商で試合が始まった。初回に先制を許したが、すぐに逆転。4回に追いつかれ、その後は0点が並び、決勝戦らしい緊迫した展開が続く。8回に勝ち越したもののその裏に追いつかれ延長戦に突入。お互い好機をものにできないまま、引き分け再試合と思われた15回裏、相手の右前打を皮切りに1死満塁。続く打者のライトに高々と上がった打球が犠飛となり、試合が決まった。

またもあと1歩のところで甲子園行きを逃した角館高校。しかし、角高球児の奮闘ぶりは見るものに感動を与え、涙を流しながらも上を向き、準優勝のメダルを首に下げ閉会式で力強く行進する選手たちに多くの拍手が送られた。

角館高校野球部（敬称略）

- 部長 渋谷 知
- 監督 湯澤 淳
- コーチ 高橋 寿彦
- 主将 清水 大輝（3年）
- 投手 相馬 和輝（2年）
- 捕手 千葉 天馬（2年）
- 一塁 伊藤 聖恭（3年）
- 二塁 藤嶋 政希（3年）
- 三塁 長澤 征哉（2年）
- 遊撃 佐藤 星太（2年）
- 左翼 小笠原 翔太（2年）
- 中野 熊谷 太一（3年）
- 右翼 小松 葵（3年）
- 控 鈴木 洸哉（3年）
- 内野 若松 達也（2年）
- 外野 熊谷 圭太（3年）
- 小松 陸（2年）
- 大石 海斗（1年）
- 小松 翔太（2年）
- 藤村 立（3年）
- 赤倉 匠（2年）
- 堀川 清義（3年）
- 大久保 睦月（3年）
- 大石 雅幸（3年）
- 藤田 東（3年）
- 渡邊 大治郎（3年）
- 奥山 紫野（3年）